

東南アジアのイスラーム社会に見られる土着的要素



東京外国語大学
青山 亨

現代のムスリムの分布



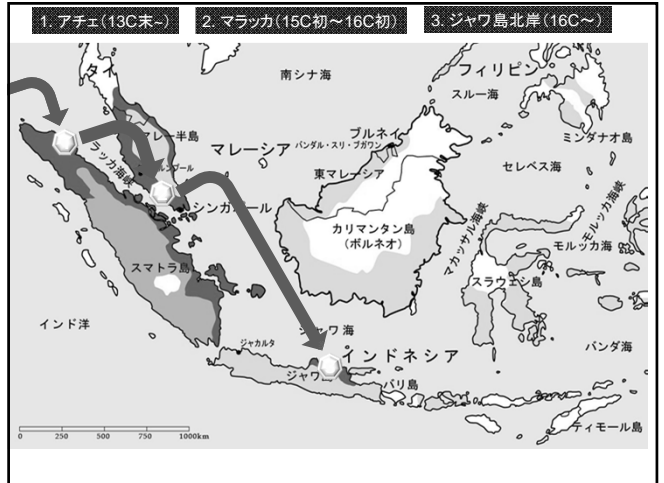
東南アジアの国別ムスリム人口

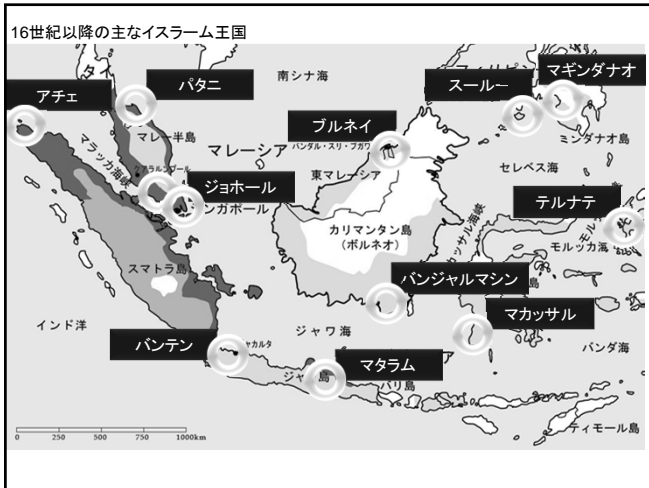
	人口	イスラーム信徒数	割合	タイプ
マレーシア	25,715,819	15,532,355	60.4%	[Bar chart showing Muslim population percentage for each country]
タイ	65,905,410	3,031,649	4.6%	
シンガポール	4,657,542	693,974	14.9%	
ブルネイ	388,190	260,057	67%	
東ティモール	1,131,612	11,316	1%	
	592,481,198	233,618,849	39.4%	

イスラームに基づく国民の祝日

2010年	インドネシア	マレーシア	ブルネイ	シンガポール
2月26日	マウリッド (ムハンマド生誕祭)	○	○	[Black box]
7月10日	イスラ・ミラジュ (ムハンマド昇天祭)	[Black box]	○	[Black box]
8月11日	[Black box]	[Black box]	ラマダン(断食月) 初日	[Black box]
8月27日	[Black box]	[Black box]	クルアーンの啓示	[Black box]
9月10-11日	イドル・フィットリ (断食明け大祭)	○(9月10-11日)	○(9月10日)	○(9月10日)
11月17日	イドル・アドハ (犠牲祭)	○(11月17日)	○(11月16日)	○(11月17日)
12月7日	イスラム暦1432年新年	○	○	[Black box]

- 570年
- 610年
- 632年
- 661年
- 750年 アッバース朝が始まる。
- 1206年 北インドにイスラーム王国が成立。
- 1258年 モンゴル軍がアッバース朝を倒す。





考察1:東南アジアのイスラーム化の要因と過程

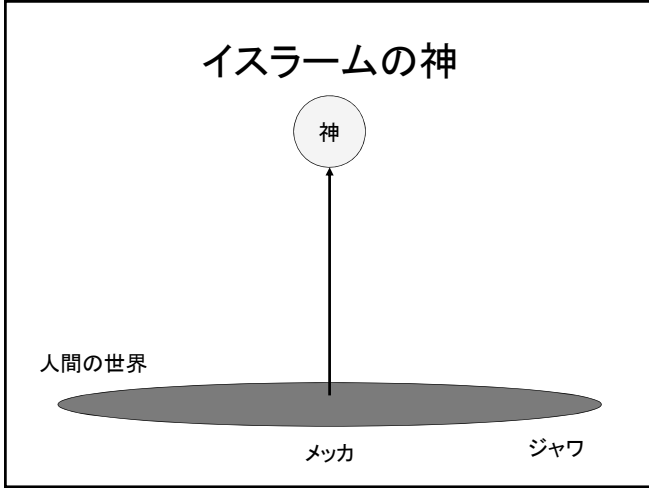
- 東西交易のルートとしての東南アジア島嶼部
- 13世紀、インドにおけるイスラーム政権の成立
- 王から家臣、住民へのトップダウンの改宗
- ヒンドゥー教の限界:個人の魂の救済?
- ただし、民衆レベルの布教は、メッカ巡礼が一般化する19世紀以降

イスラーム

- 六信:
 - 1)アッラー、2)天使、3)啓典、4)預言者(ムハンマド)、5)来世、6)天命
- 五行:
 - 1)信仰告白、2)礼拝(1日5回)、3)断食、4)喜捨、5)巡礼
- イスラーム暦(ヒジュラ暦)
 - 純太陰暦:西暦2010年=ヒジュラ暦1432年
 - 断食月(ヒジュラ暦第9月)、断食明け祭日(ルバラン)の朝に集団礼拝

正統的信仰

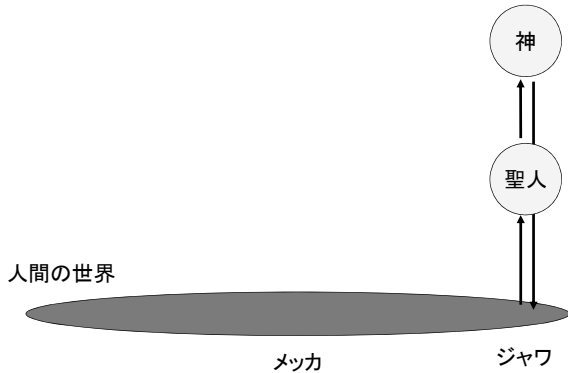
- 神は、一切を超越した唯一の絶対者、世界の創造主、終末の裁き主
- 神のみが祈りの対象



イスラームの現地化

- 聖者信仰
 - ワリ・ソング<wali(聖者)+songo(九)
 - 15世紀末~16世紀初、ジャワ島においてイスラーム布教に従事した九人の聖者
 - 聖人廟への巡礼
- 土着的伝統の受容
 - 死者への祈祷
 - 人形影絵芝居(ヒンドゥーの神々が登場)の容認

イスラームの神 その2



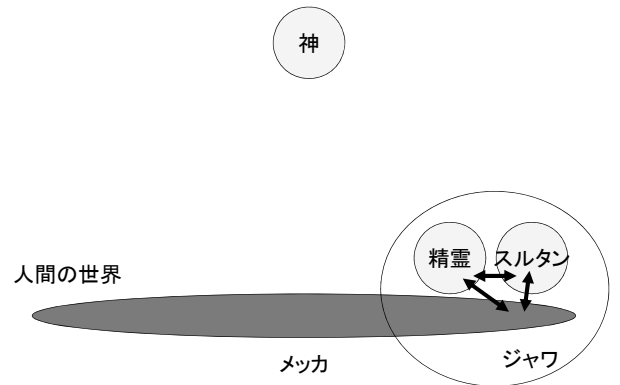
ジャワの宮廷儀礼 1

- ジョグジャカルタの王
 - スルタン(Sultan): イスラーム地域社会の世俗的権力者
 - マタラム王朝の末裔
- ガルブツグ(Garebeg)
 - ムハンマドの誕生日(第3月)
 - 断食月明け(第10月)
 - 犠牲祭(第12月)
- グヌンガン
 - ガルブツグ祭礼のハイライト
 - 山型の食べ物のみこし>民衆に配布
 - 豊穡儀礼

ジャワの宮廷儀礼 2

- 新年儀礼
 - イスラム暦正月
 - イスラム暦=ジャワ暦(マタラム王朝期に改暦)
- パラントウリティス
 - ジョグジャカルタ南方のインド洋に面した海岸
 - スルタン王宮の供物を海に奉納
 - 聖なる岩「パラクスモ」
 - 南海の女王ラトゥ・キドゥルへの奉納と瞑想

イスラームの神 その3



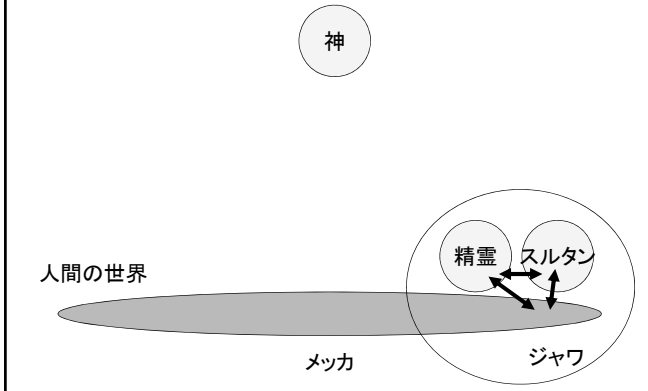
ラトゥ・キドゥル

- ラトゥ・キドゥル「南海の女王」
 - ラトゥ(ratu)=女王
 - キドゥル(kidul)=南
 - ジャワ島南海岸部を中心に広く信仰
 - 南海(インド洋)にあって、ジャワ全土の精霊たちを支配
- マタラム王朝との関係
 - 王朝の創建者セノパティと交流
 - マタラム王朝の子孫とも交流を継続

ブドヨ・クタワン

- ジャワ宮廷舞踊
 - ブドヨ・クタワン(bedhoyo ketawang)
 - スラカルタ、ススフナン王宮。マタラム王朝の末裔
 - 神聖舞踊、王の即位記念日
 - ガムラン伴奏
 - 九人の女性による集団舞踊
- ラトゥ・キドゥルの出現

イスラームの神と精霊



ラトウ・キドウルへの供物

- 東ジャワ州、グリユップ村の事例
- ラトウ・キドウルへの奉獻
 - レヨグ(reyog) 踊り
 - インド洋への供物

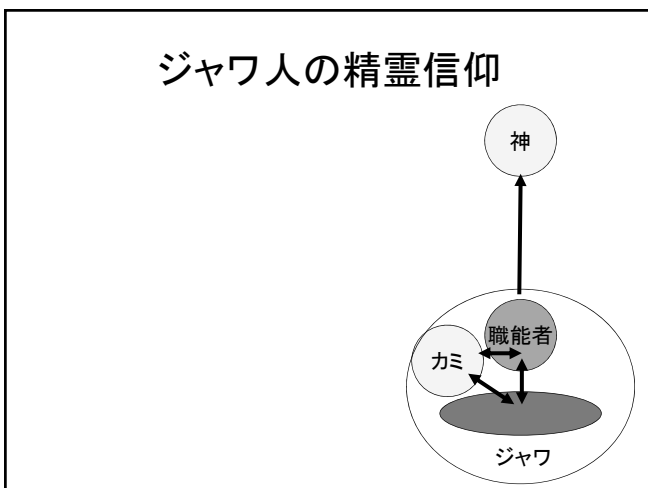
スラマタン

- スラマタン(selamatan)
 - スラマタン<selamat アラビア語「安寧」
 - 共同体の構成員(精霊を含む)による共食儀礼
- ブルシ・デサ(bersih desa)
 - 村落共同体の「清めの儀礼」
 - 年に1回、通例、収穫の後
 - アッラーに対する感謝、祖先・村開祖への敬意、アッラーと使徒に対して村の安寧を祈願
 - スラマタン(共食儀礼)

稲収穫儀礼

- デウイ・スリ(稲の女神)の信仰
 - デウイ<サンスクリットdevi(女神)
 - スリ<サンスクリットSri(吉祥の女神)
- 稲穂にデウイ・スリが宿る
 - 初穂をアニアニで穂刈りし、女神の形に作って供養する

ジャワ人の精霊信仰



考察2: 東南アジアのイスラームをどう理解するか？

- 中央(中東)の「真の」イスラーム
- 周辺「過去の慣習が残存した」「逸脱した」イスラーム
- ウラマーの説く教義のレベル大伝統(Great Tradition)
- 民衆の実践のレベル小伝統(Little Tradition)
- 現地化(localization)は宗教伝播に不可避免的な現象。中東のイスラームも中東に「現地化」。